

U2-1

11

構造理解 2

抽象絵画の構造理解

- 1 抽象絵画の背後にあるもの
情動と感情(神経生理学的メカニズム)
- 2 造形性の基本＝ホメオスタシス
心理的感覚の理解(水平・垂直・上下左右)
- 3 カンディンスキーの抽象理論
基礎平面・内部要素・視覚的力動性
- 4 Gestaltの観点からの絵画理解

抽象絵画の背後にあるもの？

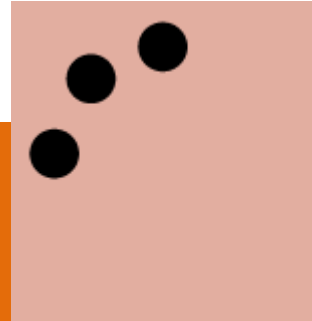
知覚

造形性

絵の表面

見えるもの

意味



バランス感覚

色彩感覚

リズム
対比
調和
...

熱い
寒い
穏やか
...

感じること

人間心理

人間の生理学的メカニズム

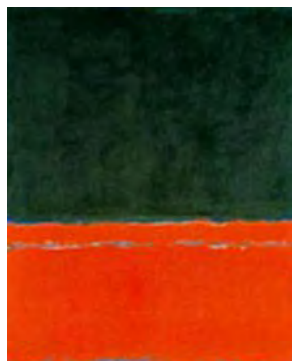
感情の四段階



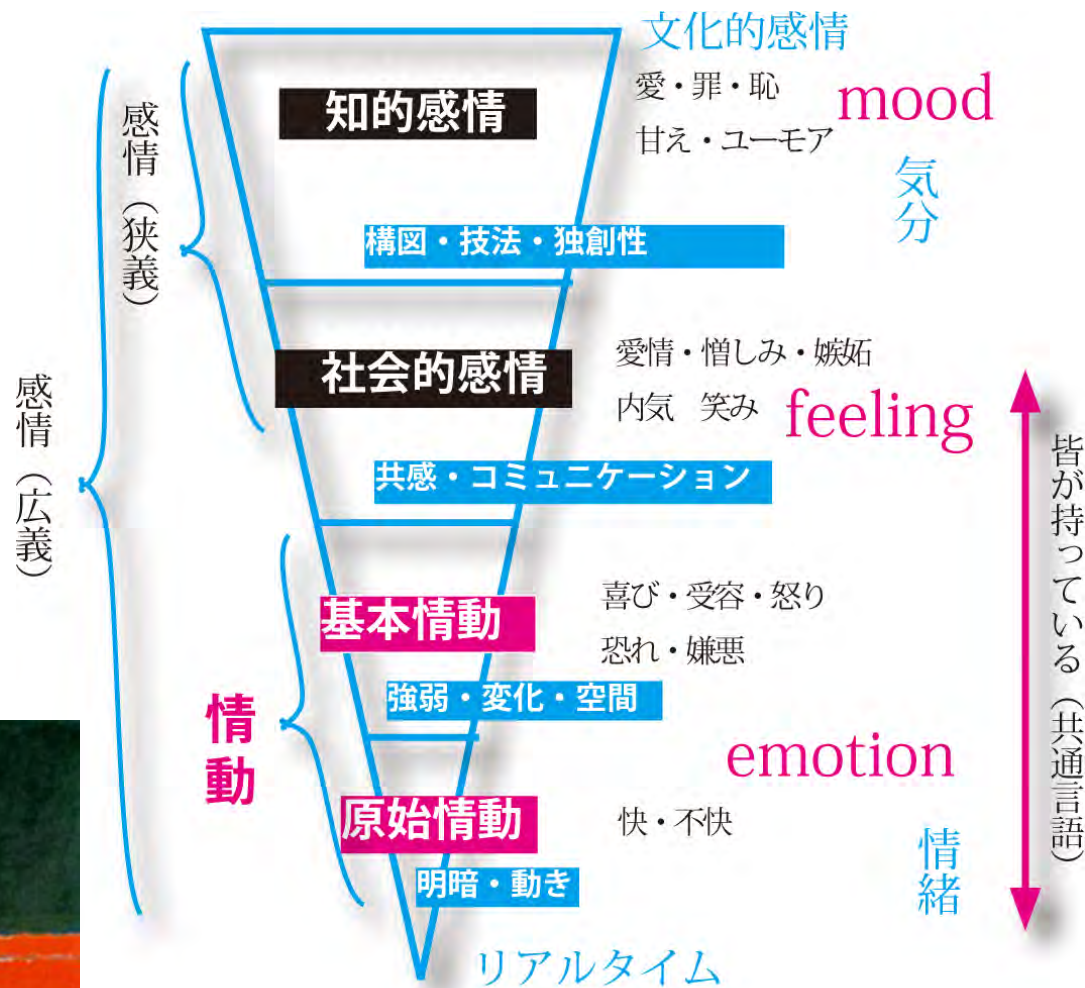
マネ



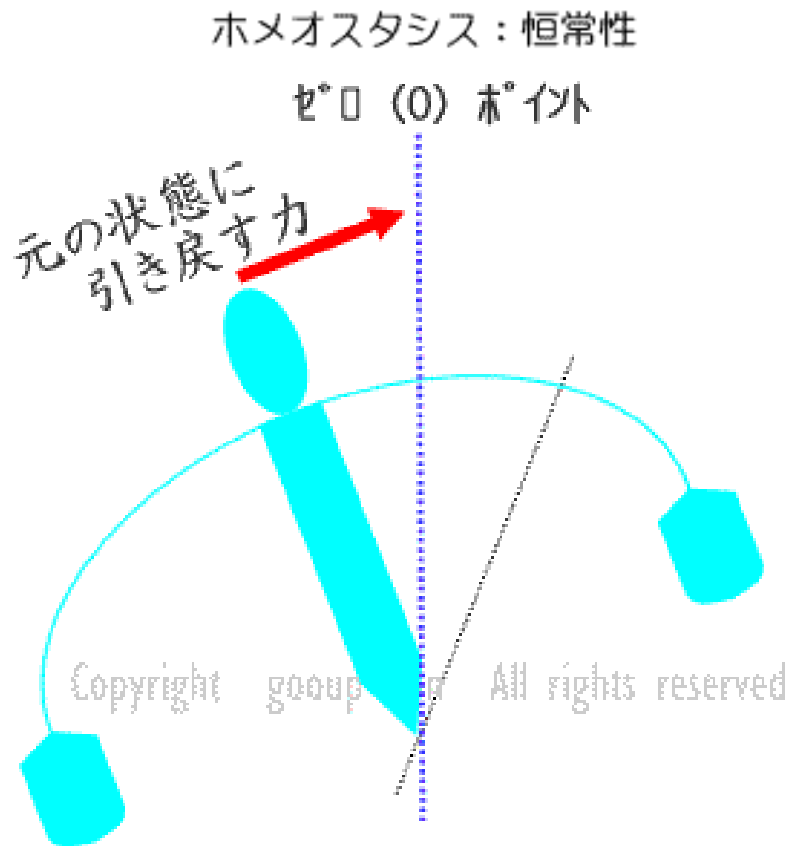
ムンク



ロスコ



基本 = ホメオスタシス (恒常性維持)



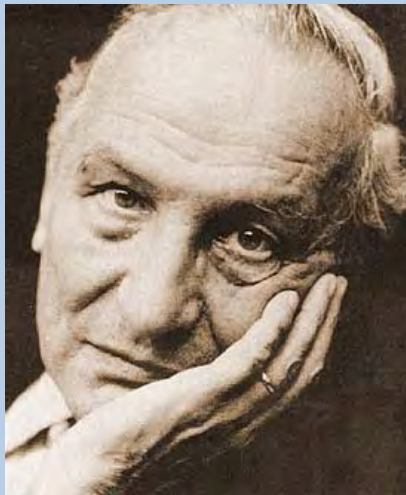
環境の変化に対して自分の体内環境を
「ある一定の範囲に保とうとする」する

元の状態に戻そうとする働きすなわち
“生じた変化を打ち消す働き”を指す現象

均衡状態の復帰の原理 <中心>

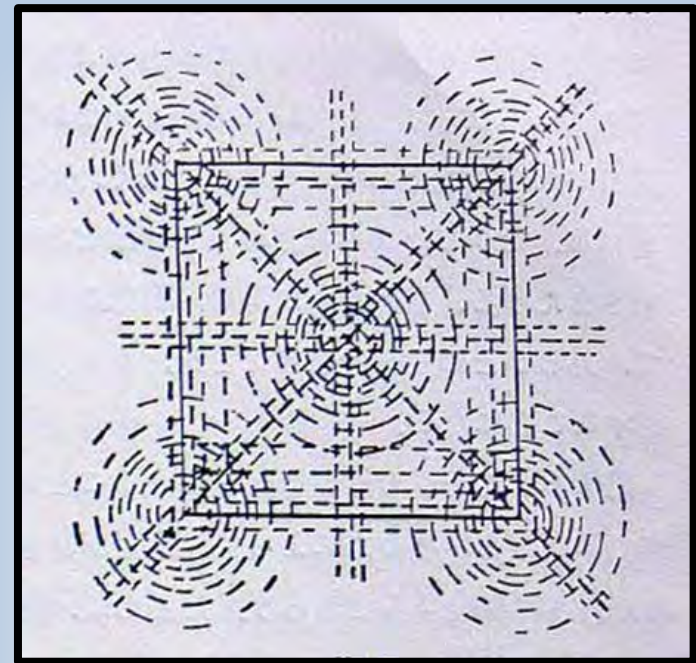
アルンハイム 「中心の力」

中心は隠れた構造の一部である。



Rudolf Arnheim

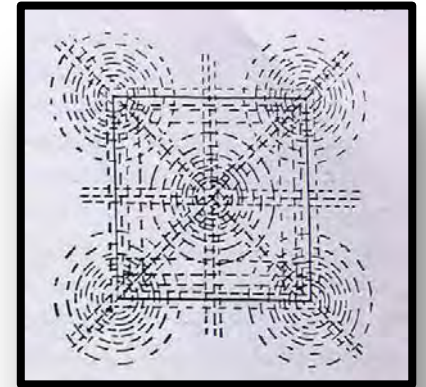
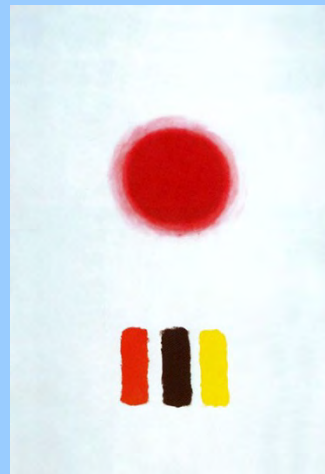
1904 - 2007年



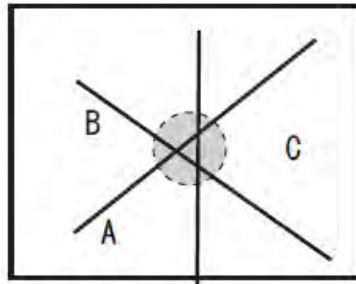
中心の力



ゴットリーブ

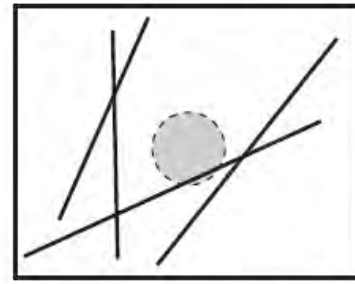


中心の力



抒情的な響き

A・B: 中心に位置する



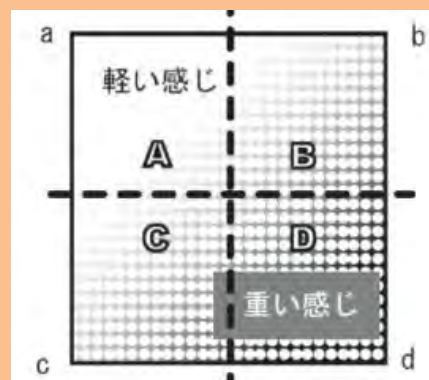
ドラマチックな響き

いずれの線も非中心的

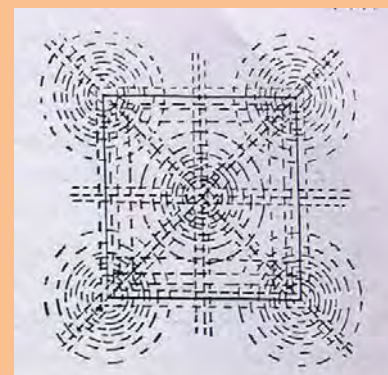


基礎平面

- ・ 絵画の画面は、**ただの四角形ではない**
- ・ 画面は、均質では無い **上下・左右で異なる**



カンディンスキー



アルンハイム

基礎平面

画面は、均質では無い、上下・左右で異なる



元絵



基礎平面

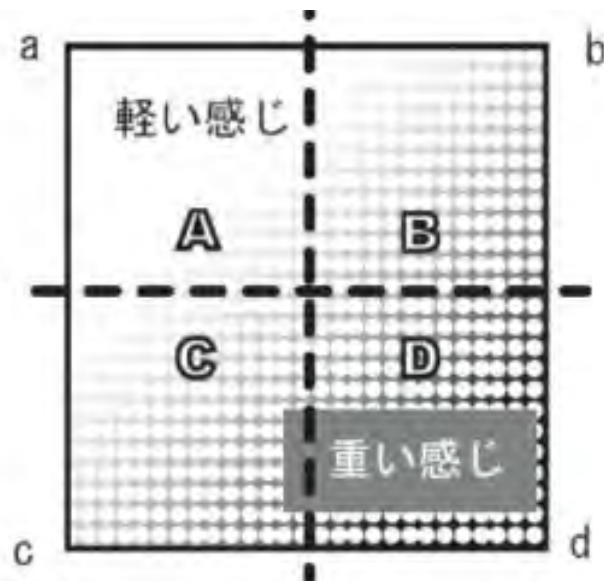
画面は、均質では無い、上下・左右で異なる



元絵



軽い



重い



基礎平面

4角の平面は、かたちにより、どのように感じるか？



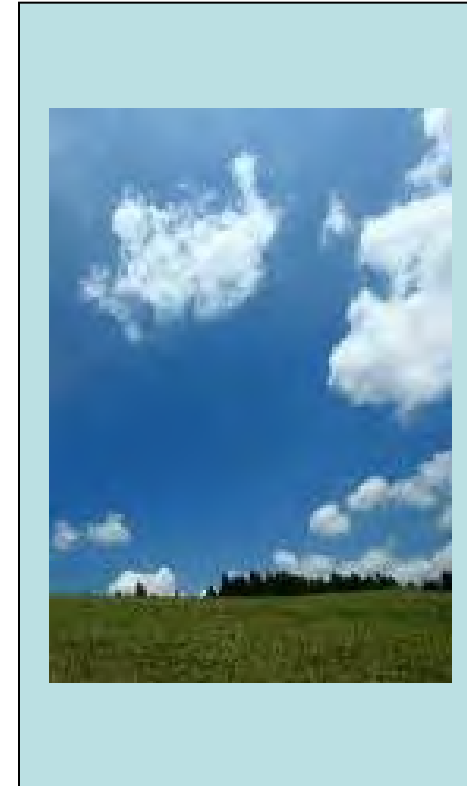
横広がり

水平

安定

冷たい

経験の
連想



上下への動き

下から上へ

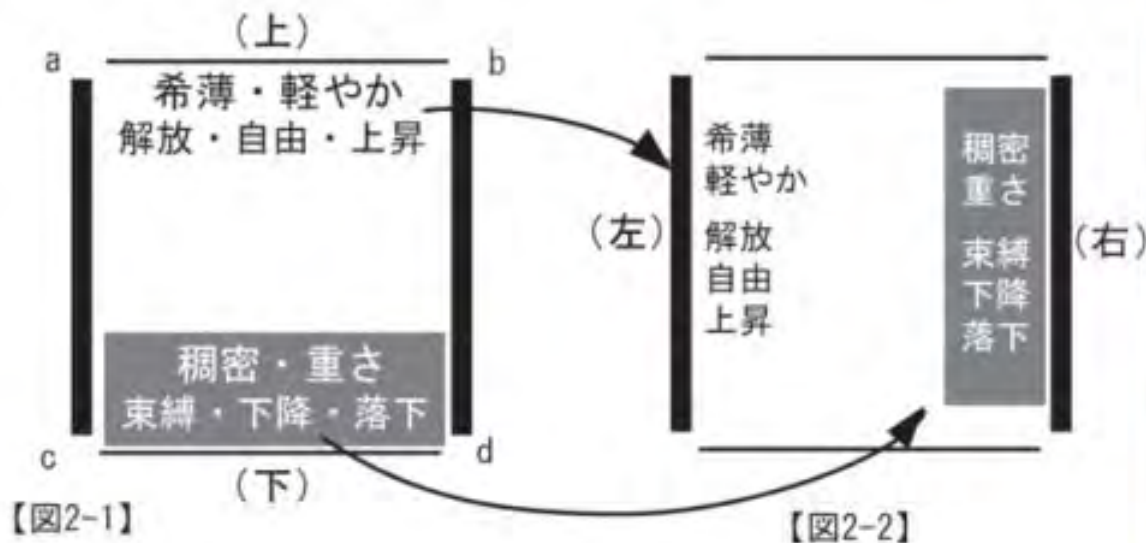
左右から圧迫

暖かい

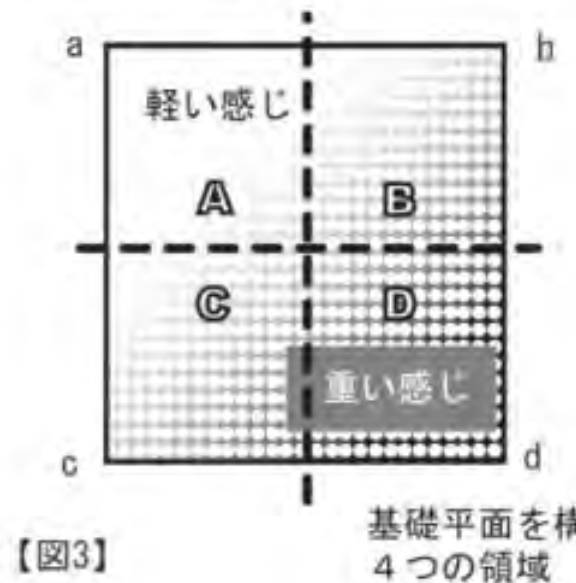
基礎平面

画面は、均質では無い、上下・左右で異なる

2. 基礎平面の上下左右の情動性



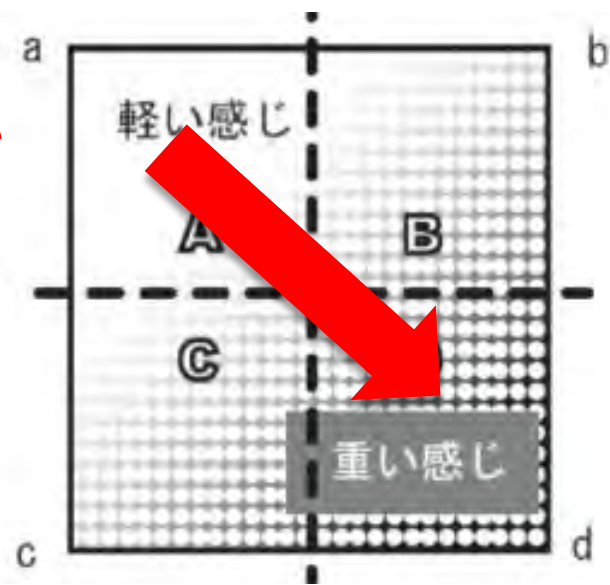
3. 重さの配分





- ・基礎平面の軽・重
- ・視線が動く傾向

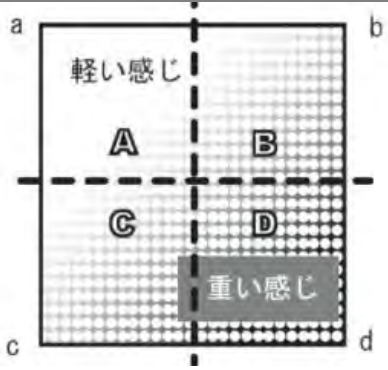
軽い



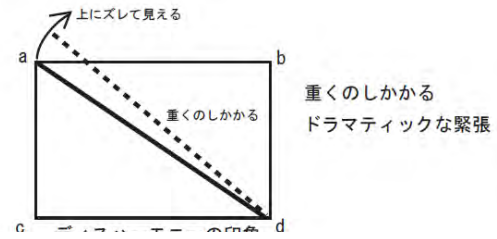
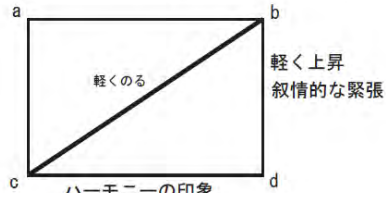
重い



図の方向性

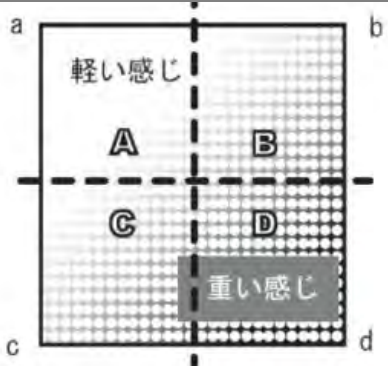


5. 対角線（緊張測定線）

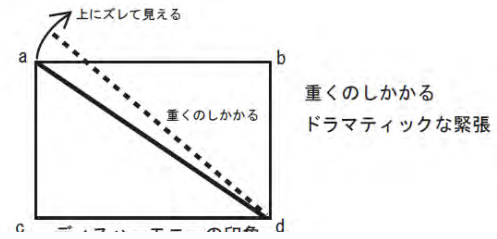
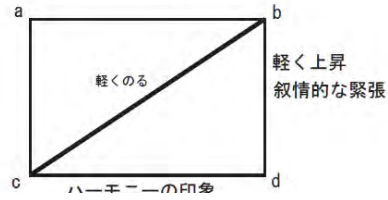


「キリスト昇架」(1610-1611年)

図の方向性



5. 対角線 (緊張測定線)



「キリスト降架」(1610-1611年)



「キリスト昇架」(1610-1611年)

絵画における左右問題



左右反転した画像から受ける印象は異なる

この問題を最初に指摘したのは今世紀前半の美術史家ヴェルフリン (Wölfflin, H.) であるとされている。彼はラファエロなどの作品のオリジナルと反転像を実際に比較して、画面の左側と右側は決定的に性質が異なり、そのため左右の反転は受ける印象を大きく変えてしまうと主張した。この原因として多くの研究者が想定しているのは、絵画は「左から右へと読まれること」、すなわち左から右へと画面を走査する傾向が一般にみられることである。その根源には西欧の左から右への書法がある

左右問題

どちらが元絵？

基礎平面

遠い・深い

軽い

軽い感じ



重い感じ

重い

近い・浅い



左右の反転(フリップ)により印象が変わる。
この問題を最初に指摘=ヴェルフリン
向かって左から右への走査
壁面に描かれた物語絵も左から右へ
展開する
右側に主題が置かれる画面が好まれる

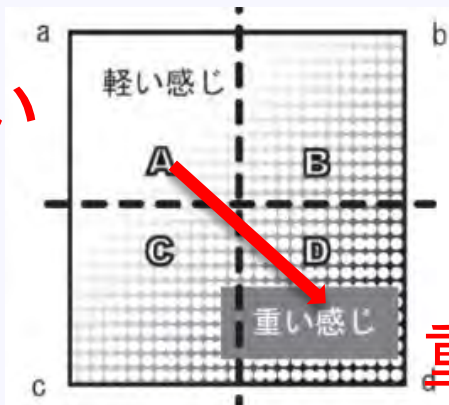




林檎と桃のある静物 1905年頃
Nature morte aux pommes et pêches
カンヴァスに油彩 81.2×100 cm
Washington D.C., National Gallery of Art,
Gift of Eugene and Agnes Meyer



軽い

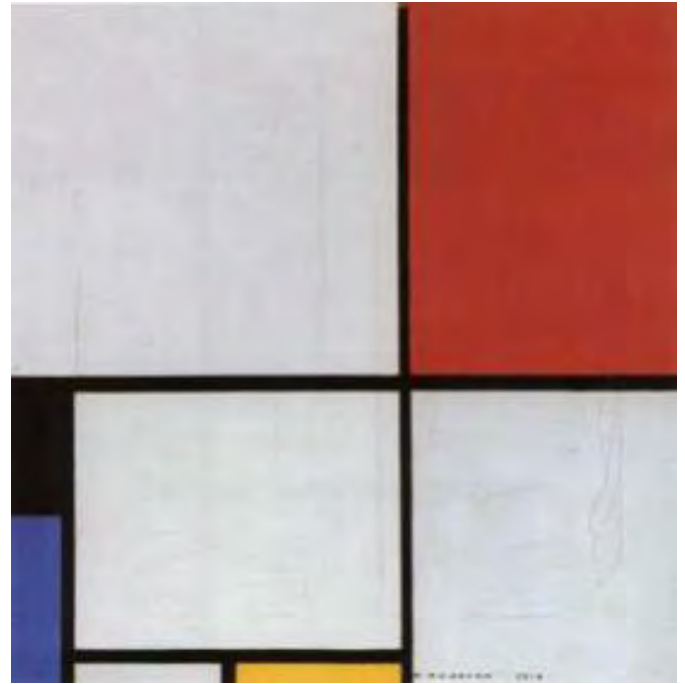
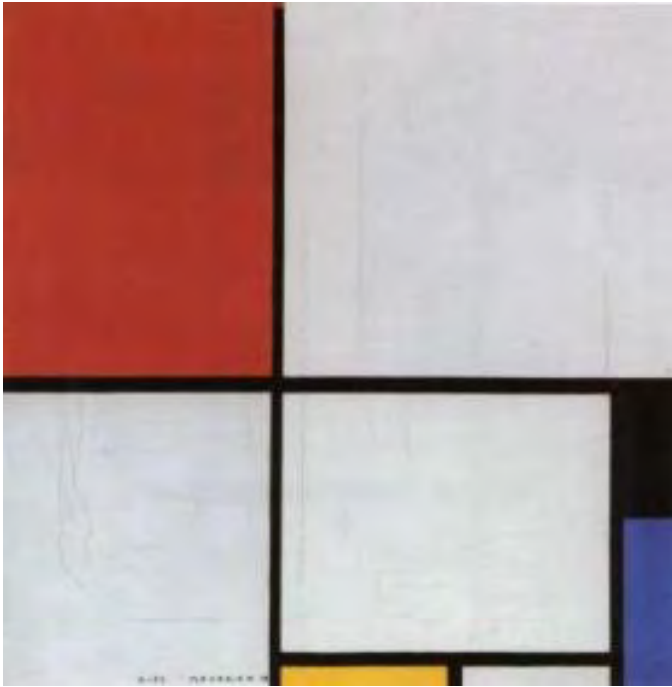


重い

睡蓮、1916年
Nymphéas







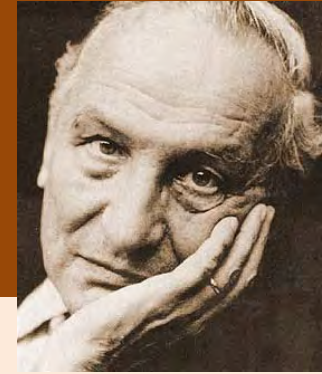
方向のある緊張＝運動不在の力

知覚的ダイナミクス

Kandinsky

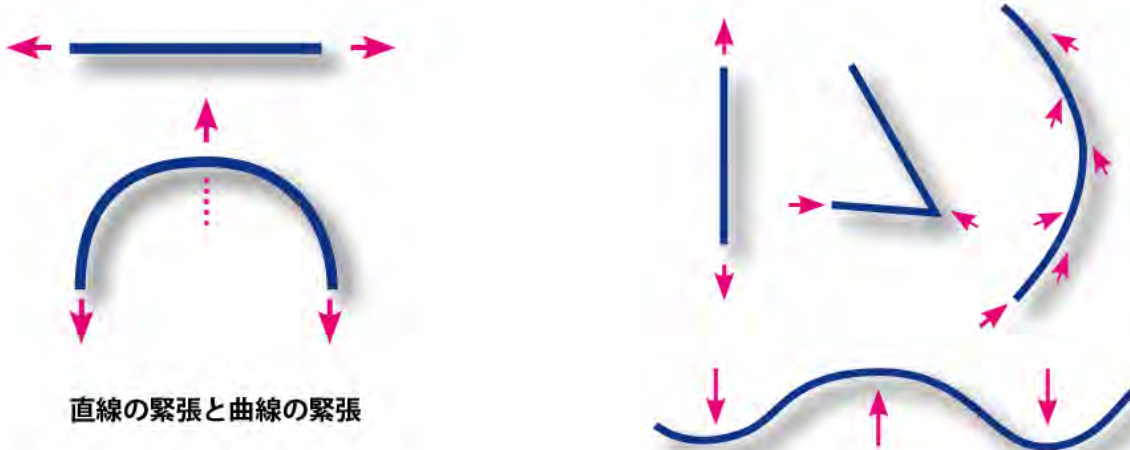


Arnheim



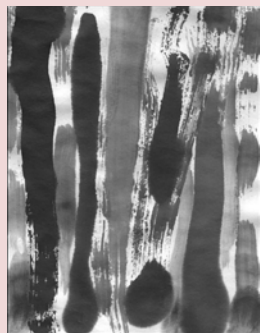
外部要素と内部要素 (カンディンスキー)

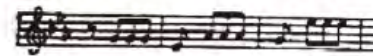
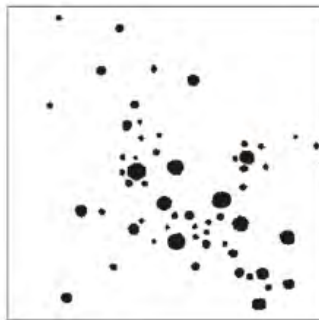
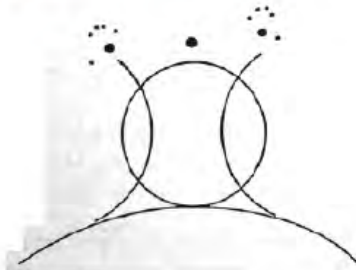
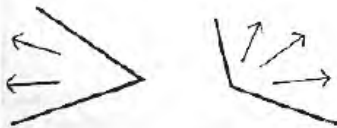
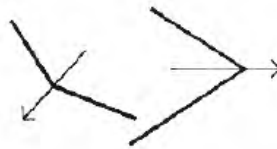
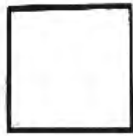
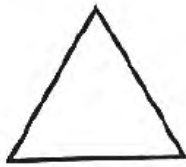
カンディンスキーの主張、それはすべての要素が二重になっていて、外部的でも内部的でもあるという事である。この「要素の理論」は、**外在性＝目に見えるモノ**と、**内在性＝見えないモノ**を同時に備えているとする。したがって、**目に見えるこうした描線**として存在し、同時に**内部的には一定の情動性**をもったかたちで存在する。







- ・ 描かれた形には、軸ができる
- ・ 軸には方向のある力ができる
- ・ 視覚対象は主軸の方向に動くことを好む
- ・ 形の軸はふたつの反対方向への運動を生ずる。
ひとつがいろいろの理由で選ばれる

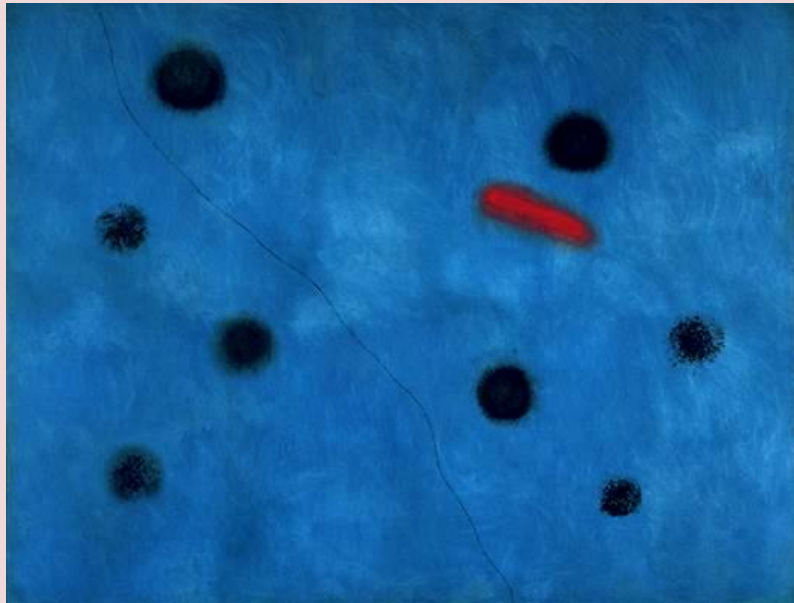




ベートーベン「第五シンフォニー」第一楽章



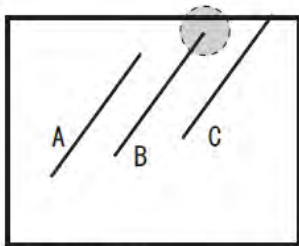
ベートーベン「第五シンフォニー」第一楽章



視覚的力動性＝緊張体験

筋肉や関節をうごかす物理的な力＝運動感覚によるものではなく、刺激によって**大脳**に起こされた**感覚神経**による**知覚的な力**による。

すべての人間に共通な基本的な視知覚系であり、そのことによって「**普遍性**」を備えているといえる。

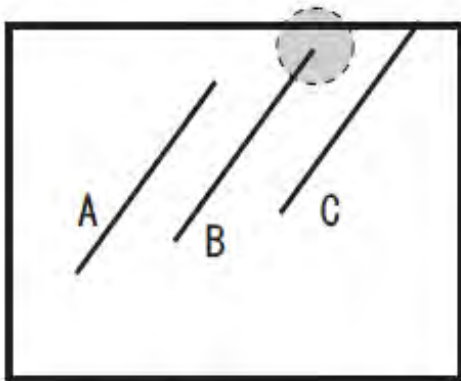


- A: 抒情的
- B: 上辺への緊張が加わる
- C: 接触により緊張解除



辺が持つ、緊張誘発力

6. 辺への接近による緊張

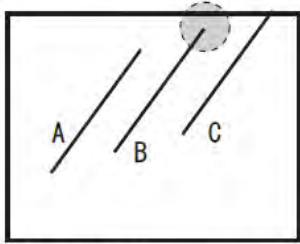


- A : 抒情的
- B : 上辺への緊張が加わる
- C : 接触により緊張解除

【図6】



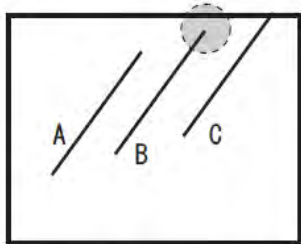
辺が持つ、緊張誘発力



- A: 抒情的
- B: 上辺への緊張が加わる
- C: 接触により緊張解除



辺が持つ、緊張誘発力



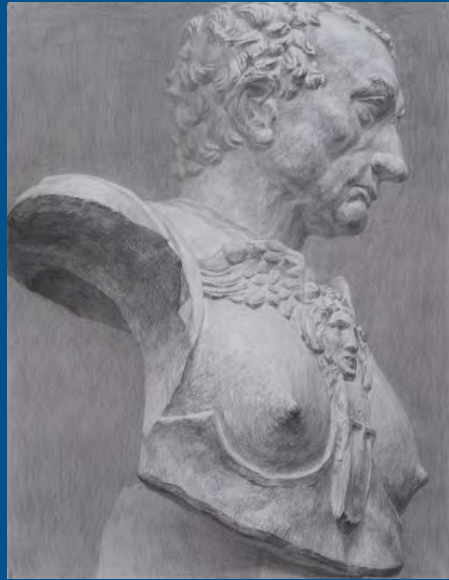
- A : 抒情的
- B : 上辺への緊張が加わる
- C : 接触により緊張解除

【図6】



辺が持つ、緊張誘発力



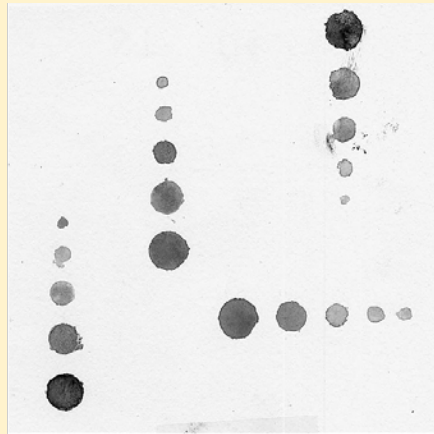


視覚的力動性

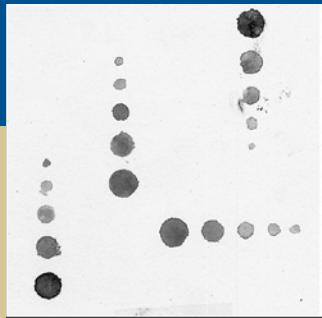
1. 事例検証

- ◆ 上下、左右
- ◆ 水平・垂直
- ◆ 斜め・対角線
- ◆ 動き・スピード

上昇運動の方が水平運動よりも速く動くように見える(ブラウン)



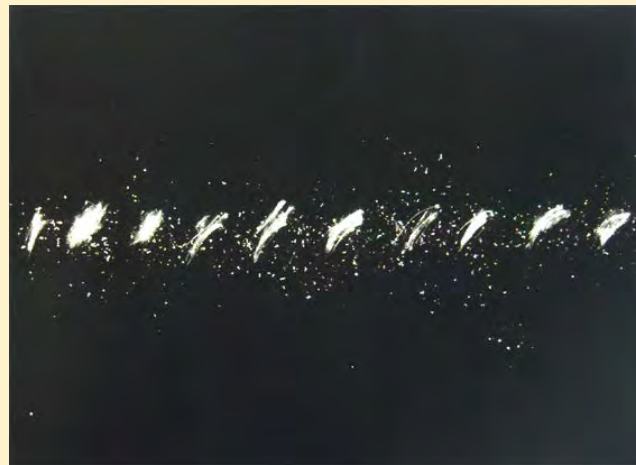
視覚的力動性



作例を見る

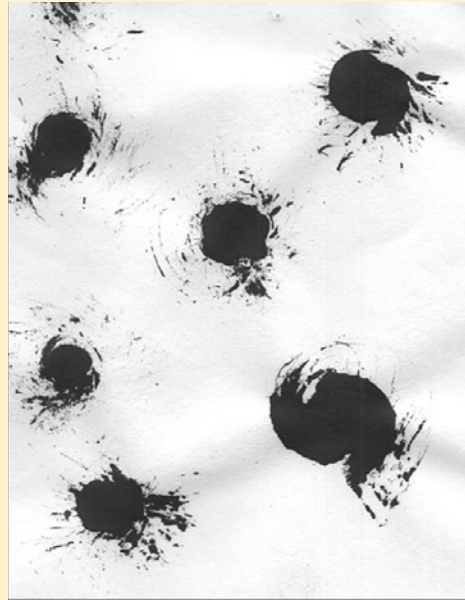
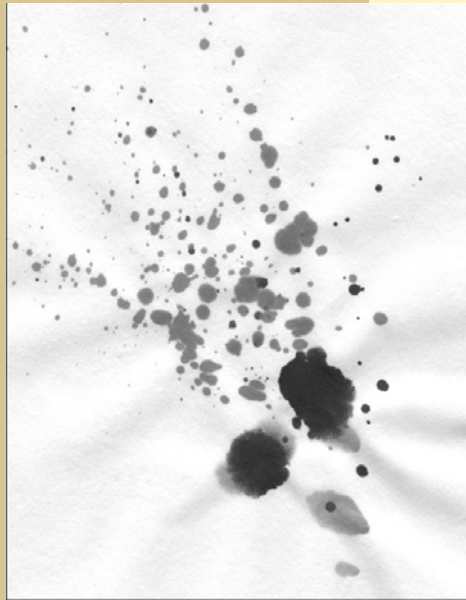
荒木哲夫

点・水平・垂直



視覚的力動性

- h- 1 モノとモノとの間隔は力動的である
- h- 2 小さい形(モノ)の方が動く
- h- 3 そばに描かれたモノの方に引きずられる傾向がある

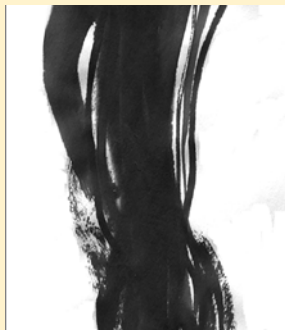


視覚的力動性

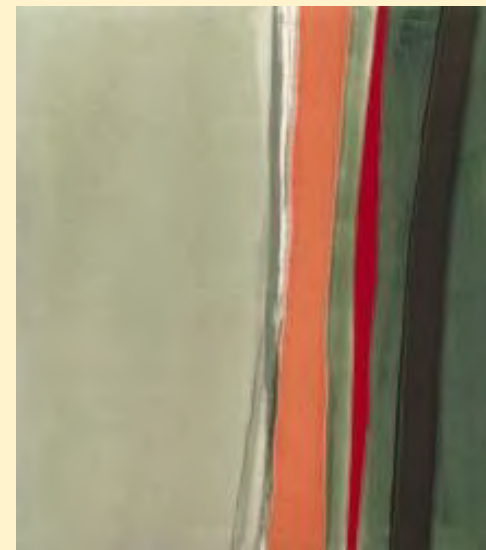
1. 事例検証

- ◆ 上下、左右
- ◆ 水平・垂直
- ◆ 斜め・対角線
- ◆ 動き・スピード

垂直の方向をとる形は斜めになっているものよりも重い



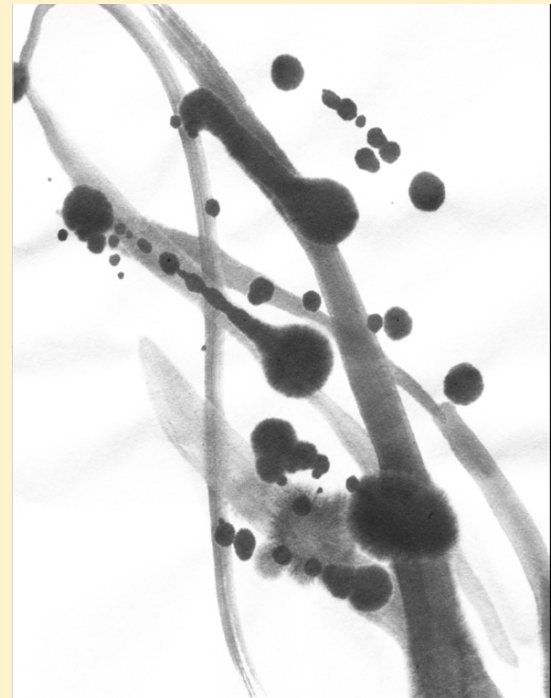
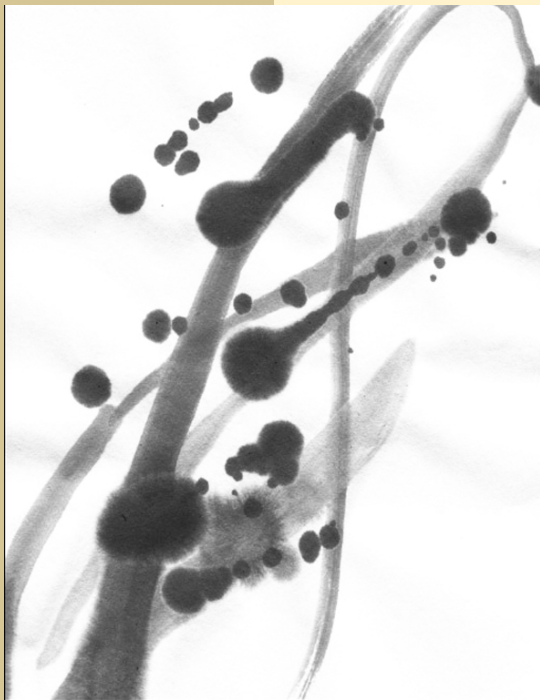
ニューマン



ルイス

視覚的力動性

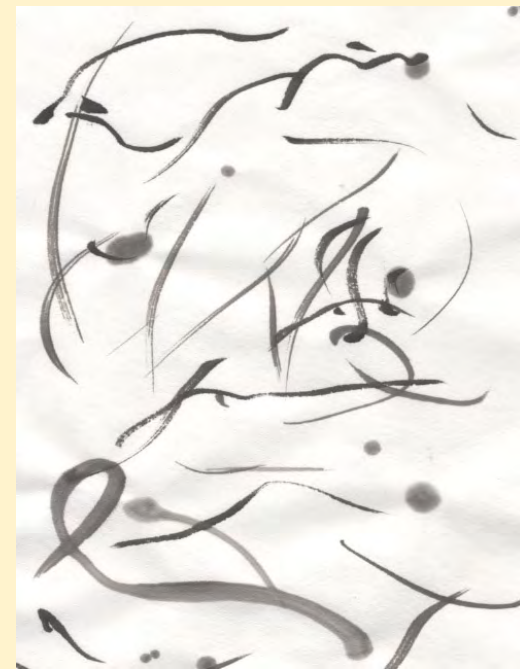
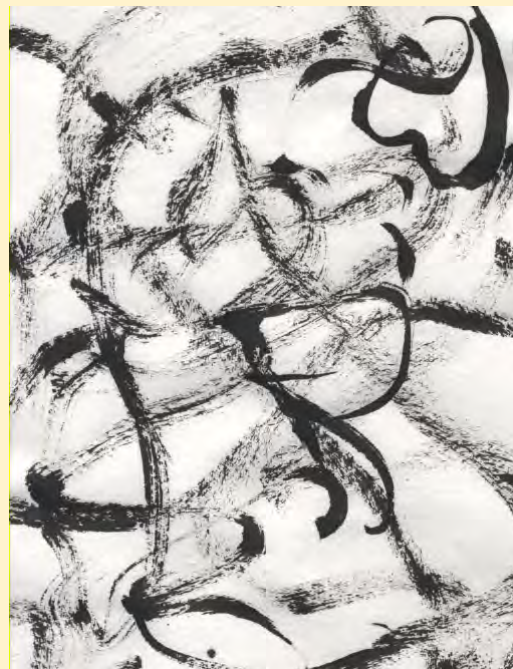
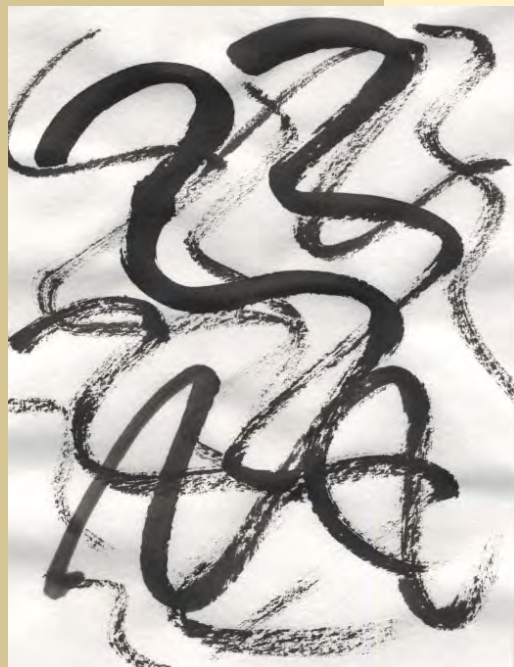
- e- 1 斜め位置は、強い力動的な効果を生み出す
- e- 2 左下から右上への対角線は上昇的（ベルフリン）
- e- 3 左上から右下への対角線は下降的（ベルフリン）
- e- 4 斜線が方向のある緊張を生ずるのは正常な位置からズレたものと認められるから
- e- 5 斜め方向位置は方向のある緊張をつくりだす最も有効な手段であらう





視覚的力動性

動き・スピード



視覚的力動性

薄暗い方が動き, 明るい方は静止する
ぼやけて薄くなっているものは動きを感じさせる(車輪・旗・腕・脚)

